

児童生徒における情報倫理意識と一般的規範意識の関係

沖林 洋平 神山 貴弥 西井 章司 森保 尚美
川本 憲明 鹿江 宏明 森 敏昭

問題と目的

急速な情報通信技術の進歩やインターネット接続環境の改善に伴い、情報教育の必要性が指摘されるようになって久しい。中央教育審議会第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(1996)において、「情報活用能力」の育成が示された。情報活用能力とは、情報に関するリテラシー、すなわち、情報に関する読み書き能力である。同答申においては、「初等中等教育においては、高度情報化社会を生きる子供たちに、情報に埋没することなく、情報や情報機器を主体的に選択し、活用するとともに、情報を積極的に発信することができるための基礎的な資質や能力、すなわち、「高度情報化社会における情報リテラシー(情報活用能力)基礎的な資質や能力を育成していく必要がある」という記述がある。同答申における情報活用能力とは、「情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質」と要約できるだろう。

平成14年に改訂された新学習指導要領の総則においては、小・中学校を通じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、インターネットなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動の充実を図ることが示されている。このように、インターネットなどの情報手段に慣れ親しみ、それらをうまく活用することについては、現在、十分な指導が行われていると考えられる。しかし、児童生徒の情報活用能力の向上によって、身につけた情報利用技術の適切な使用に関しても適切に指導する必要性が生じるかもしれない。このような情報活用に関する倫理は、一般に、情報倫理や情報モラルと呼ばれる。

情報倫理に関する学校での確立された指導体制の希求や情報倫理意識の大規模実態調査は、2000年以降に多く見られるようになった。その理由のひとつには、児童生徒の情報活用能力の向上が挙げられるが、それ

とは別に、「情報化の影の部分(以下「影の部分」)」に対する指導に関する実態調査があった。「影の部分」とは、情報技術の利用に伴う危険性や記述の悪用のことを指す。その具体例としては、チャットでの知り合いに対する悪口やホームページの改ざんなど、インターネット仮想空間内の匿名性を悪用されることによる被害の危険性などが挙げられる。近年、「影の部分」の顕在化と見られる事件が報告されるようになり、そのような事件が、当該学校による情報モラル教育や情報モラルに関する調査の契機となることも多い。情報倫理に関する教育や調査研究はその端緒に差し掛かったところであり、多方面からの要請に基づくものである。また、当該領域の研究例が少ないことを考え合わせると、現在の児童生徒の意識に関する実態調査を行うことは、情報技術の適切な使用を促す学習指導の基礎資料を提供することになるだろう。

本研究では、この児童生徒の情報倫理意識を多面的に明らかにするために、一般的規範意識との関連を見るという手法を用いることとした。規範とは、「一般的には、行動や判断の基準」を指す。この行動・判断の基準とは、見習うべき手本のことである。すなわち規範とは、行動や判断の基準となる見習うべき手本のことであるといえる。そこで、規範意識とは、これら手本を尊重する意識のことであると位置づけることができるだろう。

規範意識の実態調査の先行研究として、2003(平成16)年に実施された、三重県「児童生徒の規範意識(感じ方・考え方)に関する実態調査」の巻頭言には、調査実施の背景が次のように述べられている。「……三重県教育委員会では、平成15年から、生活指導のリーダーを養成する研修会や保護者や地域ぐるみで子どもを育てる取り組みを実施しています。さらに……幅広い取り組みを続けていますが、……依然として深刻な状況が続いています。このような状況に対して、子どもた

ちは、今、どのような考えを持って日常生活を送っているのか、子どもたちにどのような規範意識が育まれているのかなどの実態を明らかにしていくことは、これまでの様々な取り組みを問い直し、今後の生徒指導の充実を図っていくためにも必要なことであります。」とある。この記述からは、現在、児童・生徒がどのような考えを持って日常生活を送っているのかが明らかではないことがうかがえる。

一方では、情報倫理意識の低さにより、「影の部分」が顕在化し、他方では、日常生活における感じ方・考え方としての規範意識の低さが学校における深刻な状況を生み出しているという現象が起きている。両者の概念は、まったく同一ではないだろうが、現実には起きている様々な事件は、両者の潜在的な関連を示唆しているように思われる。

情報倫理意識と一般的な規範意識について、それぞれ個別の認識等に関する調査は少しずつ行われるようになってきている。しかしながら、両者の関係を検討している研究は、わが国においてはこれまでほとんど行われていないといつてよいだろう。本研究は、探索的な意味合いの強い調査研究であるが、教育委員会や地方自治体による大規模調査で用いられている尺度項目を効果的に利用することにより、それらとの比較を行うことができれば、得られた知見は頑健性の高いものとなると考えられる。そこで本研究では、情報倫理意識の測定に用いた尺度として「情報モラルに関するアンケート」を用い、一般的規範意識の測定に用いた尺度として、三重県教育委員会が作成した「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する実態調査」の調査項目を用いることとした。

「情報モラルに関するアンケート」は、平成16年度文部科学省「情報化の影の部分への適切な対応に関する研究委託事業」の一環として、財団法人コンピューター教育開発センターにより開発された尺度である。この調査は、文部科学省が実施した情報モラル指導の実態調査の結果を検証することを目的として、平成16年11月22日から平成17年12月24日にかけて実施されたものである。調査対象は、全国47都道府県の校長470名、教員10526名と、小中高等学校の児童生徒の約14000名であった。本研究では、同調査の実施時期が2003年であることから、小中学生を対象とした質問項目の一部を用いることとした。

「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する実態調査」は、三重県教育委員会によって、平成16年9月に、三重県の小学5、6年生、中学校・高等学校の全学年から約18000人を対象として実施されたものである。同調査は、子どもの「心の内面」を明らかにする

ことを目的として実施された。質問項目は、子どもの規範意識の実態を把握するための規範意識項目と、その規範意識と相互に影響しあっている可能性の高井生活意識項目によって構成されている。また、小学校5年生から高校3年生までの異なる発達段階の子どもの対象とするため、質問総項目数や文章の難易度を考慮し、小学生用・中学生用・高校生用の3種の質問紙が作成されている。このように、同調査も最近実施されたものであること、および、発達段階を考慮して質問紙が作成されていることを考慮し、本研究では、同調査で用いられた質問項目の一部を用いることとした。

以上のように、本研究は、「情報モラルに関するアンケート」と「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する実態調査」のから構成されている。前者が情報倫理意識、後者が一般的規範意識の測定に対応したものである。情報倫理意識と一般的規範意識の関連性に基づき、次のような仮説を仮定することができる。すなわち、情報倫理意識と一般的規範意識の間に何らかの関連性が見られるならば、一般的規範意識を身につける過程で、何らかの情報倫理意識も培われることが示唆されることにより、情報倫理意識の指導は、情報科目の中だけにとどまるものではないと考えられる。これに対して、情報倫理意識と一般的倫理意識の間にどのような関連性も見られない場合は、情報活用の具体的場面に特化した情報倫理意識の育成を図る必要性が示唆されると考えられる。そこで、両者にどのような関連性が見られるかについて検討することを、本研究の目的とした。また、本研究で用いる質問項目は、最新の实態調査によって得られたものであるため、本研究は、平成17年度現在の、児童生徒の情報倫理意識と一般的規範意識の実態を捉えることを付随的な目的とした。

方法

調査協力者 附属東雲小学校の5年生84名（男子42名、女子42名）、6年生80名（男子39名、女子41名）、および、附属東雲中学校の1年生72名（男子34名、女子38名）、2年生75名（男子36名、女子39名）。

調査時期 2006年1月上旬に調査を実施した。

質問紙 本研究では、「情報モラルに関する調査報告書」と「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する実態調査」から必要な項目を任意に選定し、調査用紙を作成した。質問項目は、問14の問いにより構成された。この中で、問1、問2、問3を「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する調査」から引用した。問4から問14は、「情報モラルに関する調査報告書」から引用した。質問紙の全文は、本論文末尾に資

料として掲載した。

4は、「ホームページ」「電子メール」「チャット」「電子掲示板」の情報手段に関する用語に関する知識の有無について尋ねたものである。各学年、性別での問4に対する回答についてまとめたのが、Table1である。

結果

各問に対する単純集計の結果

各問に対する単純集計の結果を以下にまとめた。問

Table1 問4の各設問に対する学年・性別ごとの回答

		小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
4-1	知っている	38	40	39	41	32	37	34	37
	%	12.26	12.90	12.58	13.23	10.32	11.94	10.97	11.94
	知らない	4	2	0	0	2	1	1	2
	%	1.29	0.65			0.65	0.32	0.32	0.65
4-2	知っている	34	26	31	39	30	33	33	37
	%	10.97	8.39	10.00	12.58	9.68	10.65	10.65	11.94
	知らない	8	16	8	2	4	5	2	2
	%	2.58	5.16	2.58	0.65	1.29	1.61	0.65	0.65
4-3	知っている	25	22	28	33	30	35	30	32
	%	8.06	7.10	9.03	10.65	9.68	11.29	9.68	10.32
	知らない	17	20	11	8	4	3	5	7
	%	5.48	6.45	3.55	2.58	1.29	0.97	1.61	2.26
4-4	知っている	36	28	30	33	31	31	26	29
	%	11.65	9.06	9.71	10.68	10.03	10.03	8.41	9.39
	知らない	5	14	9	8	3	7	9	10
	%	1.62	4.53	2.91	2.59	0.97	2.27	2.91	3.24

パーセンテージは、各セルの全体に対する値を示した。

Table2 問5の各設問に対する学年・性別ごとの回答

		小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
5-1	使ったことがある	37	34	39	38	31	31	29	34
	%	11.90	10.93	12.54	12.22	9.97	9.97	9.32	10.93
	使ったことがない	5	8	0	3	3	7	7	5
	%	1.61	2.57	0.00	0.96	0.96	2.25	2.25	1.61
5-2	使ったことがある	20	22	14	22	24	18	25	31
	%	6.43	7.07	4.50	7.07	7.72	5.79	8.04	9.97
	使ったことがない	22	20	25	19	10	20	11	8
	%	7.07	6.43	8.04	6.11	3.22	6.43	3.54	2.57
5-3	使ったことがある	9	7	18	18	18	16	15	17
	%	2.89	2.25	5.79	5.79	5.79	5.14	4.82	5.47
	使ったことがない	33	35	21	23	16	22	21	22
	%	10.61	11.25	6.75	7.40	5.14	7.07	6.75	7.07
5-4	使ったことがある	17	12	16	13	14	11	17	9
	%	5.48	3.87	5.16	4.19	4.52	3.55	5.48	2.90
	使ったことがない	25	29	23	28	20	27	19	30
	%	8.06	9.35	7.42	9.03	6.45	8.71	6.13	9.68

パーセンテージは、各セルの全体に対する値を示した。

Table3 問6の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
6-1	39	35	36	34	31	34	32	37
%	14.03	12.59	12.95	12.23	11.15	12.23	11.51	13.31
6-2	34	33	32	34	14	21	20	25
%	15.96	15.49	15.02	15.96	6.57	9.86	9.39	11.74
6-3	15	13	12	8	7	6	4	5
%	21.43	18.57	17.14	11.43	10.00	8.57	5.71	7.14
6-4	4	2	5	8	10	4	5	7
%	8.89	4.44	11.11	17.78	22.22	8.89	11.11	15.56
6-5	7	6	9	2	6	6	2	4
%	16.67	14.29	21.43	4.76	14.29	14.29	4.76	9.52
6-6	4	5	5	5	1	2	1	2
%	16.00	20.00	20.00	20.00	4.00	8.00	4.00	8.00
6-7	1	4	0	0	1	2	1	0
%	11.11	44.44	0	0	11.11	22.22	11.11	0

問6は重複回答であった。

Table4 問7の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年									
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子								
1	5	6%	4	5%	1	1%	1	1%	3	4%	3	4%	1	1%	2	3%
2	24	29%	25	30%	17	22%	12	16%	5	7%	18	25%	10	13%	15	20%
3	13	16%	12	14%	20	26%	26	34%	26	37%	16	23%	25	33%	22	29%
合計	42		41		38		39		34		37		36		39	

パーセンテージは、各セルの全学年に対する値を示した。

Table1, Table2からは、全体として、情報手段の名称を知識として持っており、かつ使ったことがある児童生徒が大部分を占めていることが明らかとなった。しかしながら、問4、問5の第3問、第4問の「チャット」と「電子掲示板」については、知っていると答えたのが76%（チャット）、79%（電子掲示板）であったのに対し、使ったことがあると答えたのは、チャットは38%、電子掲示板は35%であった。

パソコンを用いてのインターネットの使用場所について尋ねた結果を学年・性別毎に集計したのが、Table3である。問6は重複回答を求めたものである。回答が多くみられたのが、「自分の家」と「学校」であった。各学年、10%から15%の児童・生徒が、自分の家でインターネットを利用しているという結果を得た。一方、学校でインターネットを利用している児童生徒の割合は、小学5年生で約16%、小学6年生で約15%、中学1年生では約8%、中学2年生では約11%であった。

自宅でのパソコンの使用状況についてたずねた結果

を学年・性別毎に集計したのが Table4である。Table4は問7「パソコンでインターネットを使うときは、家の人といっしょですか」に対する回答を示したものであり、Table5は、問8「あなたの家では、パソコンでのインターネットの利用の仕方（利用時間など）は決められていますか」に対する回答を示したものである。Table4では、選択肢1「いつもいっしょ」は、各学年ほとんど選ばれることはなかった。選択肢2「たまにいっしょのことがある」は、小学5年生では男女とも約30%が選択していた。また、中学1年女子でも25%が選択していた。選択肢3「いっしょにはやらない（ひとり使っている）」は、小学5年生では約15%が選択し、小学6年生の約30%、中学1年生の約30%、中学2年生の約30%が選択していた。

Table5は問8の回答を学年・性別毎に集計したものである。Table5からは、すべての学年において、約80%の仮定で、インターネットの使用の仕方は決められていないことが明らかとなった。また、学年間で回答比率に違いが見られなかっただけでなく、男女間でもほ

とんど違いが見られないことが明らかとなった。

問9から問11においては、情報倫理意識について、具体的な場面を設定し、それぞれの場面においてどのような行動をとるかについて尋ねた。

まず、問9では知っている友達から「……JOIN US TOGETHER!!!」というメールが届いた場合における、調査協力者の対処行動について尋ねた。問9の回答について、学年・性別毎に集計したのがTable6である。問9の選択肢の具体的な内容は、1. 大切な連絡かもしれないので、すぐにメールを開いて読む 2. 親しい友達からのメールなので、とりあえずメールを開いて読む 3. よく分からないので、メールを開く前に、メールを送ってくれた友達に聞いてみる 4. 開かずに削除する 5. わからない の5つであった。Table6から、全学年で、3「メールを開く前に、メールを送ってくれた友達に聞いてみる」が最も多く、各学年において、20%から30%の割合で選択していることが見てとれる。また、各学年において、男女の回答比率にほとんど違いが見られないことが明らかとなった。問9の回答については、選択肢3と選択肢4が、メールを開かないという行動をとることから、正しい情報倫理意識を身につけていると分類した。一方、選択肢1と選択肢2は、メールを開くという行動をとることから、間違った情報倫理意識を持っていると分類したTable6を見ると、選択肢2について、中学1年生では、男子が8%であったのに対し、女子が14%であった。同様に、中学2年生では、男子が9%であったのに対し、女子が15%であった。一方、選択肢4につい

て、中学1年生では、男子が15%であったのに対し、女子が10%であった。同様に、中学2年生では、男子が15%であったのに対し、女子が9%であった。このように、問9の解答傾向については、特に中学生において、男女で違いが見られた。

問10は、インターネットの匿名性の悪用に対する情報倫理意識について尋ねた質問項目である。問10の回答について、学年・性別毎に集計したのがTable7である。問10の選択肢の具体的な内容は、1. 正しいと思う 2. 正しいと思わない 3. 話をしている友達が信用できるかどうかによる 4. わからない であった。Table7からは、選択肢1、すなわち匿名性を利用したインターネットの悪用を正しいと思う、を選択したものはほとんどいなかったことが分かる。同様に、すべての学年で、半数以上が、選択肢2、すなわち匿名性を利用したインターネットの悪用を正しいと思わない、を選択していた。しかしながら、中学2年生の男子では、選択肢3の、話をしている友人が信用できるかどうかによる、を選択したものが男子生徒の約40%であり、これは、選択肢2を選択したものと同数であった。

問11は、チェーンメールの処理に関する質問であった。質問項目の具体的な内容は、「ある友達から「JOIN THE CREW」という題名のメールを受け取っても開かないこと、また、このメールを友達にも知らせてください」というものであった。選択肢の具体的な内容は、1. 別の友達に電子メールを送る、2. おとなの人に相談する、3. この電子メールについては無視する、

Table5 問8の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年									
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子								
決められている	11	13%	9	11%	11	14%	10	13%	11	15%	7	10%	9	12%	6	8%
決められていない	29	35%	33	40%	27	35%	29	38%	23	32%	30	42%	27	36%	33	44%
	40		42		38		39		34		37		36		39	

パーセンテージは、各セルの全学年に対する値を示した

Table6 問9の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年									
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子								
1	7	8%	3	4%	2	3%	5	6%	1	1%	0	0%	3	4%	5	7%
2	4	5%	10	12%	4	5%	7	9%	6	8%	10	14%	7	9%	11	15%
3	21	25%	23	27%	22	28%	23	29%	14	19%	17	24%	13	17%	12	16%
4	6	7%	5	6%	9	11%	2	3%	11	15%	7	10%	11	15%	7	9%
5	4	5%	1	1%	2	3%	4	5%	2	3%	4	6%	2	3%	4	5%
	42		42		39		41		34		38		36		39	

パーセンテージは、各セルの全学年に対する値を示した

Table7 問10の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1	2 2%	1 1%	4 5%	2 3%	3 4%	0 0%	0 0%	4 5%
2	27 33%	27 33%	25 31%	27 34%	18 25%	29 40%	14 19%	26 35%
3	4 5%	6 7%	3 4%	6 8%	8 11%	2 3%	14 19%	2 3%
4	7 9%	8 10%	7 9%	6 8%	5 7%	7 10%	8 11%	7 9%
	40	42	39	41	34	38	36	39

パーセンテージは、各セルの各学年に対する値を示した。各行の数字は、選択肢の番号を指す。

Table8 問11の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1	7 9%	5 9%	3 4%	4 4%	11 15%	6 8%	3 4%	3 4%
2	28 34%	31 38%	22 28%	22 28%	7 10%	15 21%	8 11%	12 16%
3	3 4%	4 5%	13 16%	13 16%	14 19%	15 21%	22 29%	21 28%
4	3 4%	1 1%	1 1%	2 3%	2 3%	2 3%	3 4%	3 4%
	41	41	39	41	34	38	36	39

パーセンテージは、各セルの各学年に対する値を示した。各行の数字は、選択肢の番号を指す。

Table9 問12の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
ある	28 34%	18 22%	19 24%	26 33%	17 24%	26 37%	29 39%	30 40%
ない	13 16%	24 29%	20 25%	15 19%	16 23%	11 16%	7 9%	9 12%
	41	42	39	41	33	37	36	39

パーセンテージは、各セルの各学年に対する値を示した。

4. わからない、であった。問11の回答について、学年・性別毎に集計したのが Table8である。問11において、正しい情報倫理意識に基づく最も適切な処置は、選択肢3の「無視する」が該当する。また、電子メールを送信しないという行動をとるという意味において、選択肢2の「おとなの人に相談する」も適切な行動であるといえる。Table8を見ると、学年によって回答傾向に違いがあることが分かる。まず、小学5年生では、選択肢2「おとなに相談する」の回答では、男子34%、女子38%と、性別の違いに関係なく大部分が選択し、回答比率にほとんど差が見られなかった。次に、小学6年生でも、選択肢2に対する回答が男女とも多くを占めた。しかしながら、小学6年生においては、選択肢3の「無視する」の選択が、男子16%、女子16%と、小学5年生の選択肢3の回答割合を、それぞれ約10%上回っていた。中学1年生では、選択肢1の「別の友達に電子メールを送る」に対する回答が、男子15%、女子8%と、男子の回答割合が、他学年よりも多かった。一方で、選択肢3を選択したのも、

男女合わせて40%であり、選択肢2に対する回答割合を合計すると71%であった。中学2年生では、男女とも、選択肢3の回答割合が、男子29%、女子21%と、合計して50%が最も正しい処置を取ることが明らかとなった。また、選択肢1「友達に電子メールを送る」の回答割合は、男女とも4%であった。

問12から問14は、インターネットの利用方法に代表される情報倫理意識の学習経験の有無や学習状況に対する質問であった。問12は、学校で、インターネット利用に関するルールやマナーについて勉強したことがあるかについて、ある・ない、の2件法で尋ねたものである。Table9は、問12の回答について、学年・性別毎に集計したものである。Table9からは、やや中学生のほうが小学生よりも割合が高いものの、全学年において、学校でインターネット利用に関するルールやマナーを学んだことがあると答えていたことが分かる。

問13は、学校で、インターネット利用に関するルールやマナーについて勉強したことがあるかについて、ある・ない、の2件法で尋ねたものである。Table10

Table10 問13の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年									
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子								
ある	24	29%	17	20%	12	15%	13	16%	13	18%	19	26%	10	13%	18	24%
ない	18	21%	25	30%	27	34%	28	35%	21	29%	19	26%	26	35%	21	28%
	42		42		39		41		34		38		36		39	

パーセンテージは、各セルの各学年に対する値を示した。

Table11 問14の各設問に対する学年・性別ごとの回答

	小学5年		小学6年		中学1年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
14-1	20	17	9	9	9	17	6	14
%	15	12.4	6.6	6.57	6.57	12.4	4.4	10.2
14-2	3	0	3	1	3	4	3	4
%	2.2	0	2.2	0.73	2.19	2.92	2.2	2.92
14-3	4	3	6	5	4	7	4	8
%	2.9	2.19	4.4	3.65	2.92	5.11	2.9	5.84
14-4	1	1	6	2	3	4	2	3
%	0.7	0.73	4.4	1.46	2.19	2.92	1.5	2.19
14-5	6	3	3	3	5	4	4	3
%	4.4	2.19	2.2	2.19	3.65	2.92	2.9	2.19

問14は重複回答であった。パーセンテージは、全体に対する値を示した。

は、問13の回答について、学年・性別毎に集計したものである。Table10からは、小学5年生を除いて、「学校以外でインターネット利用に関するルールやマナーを勉強したことがない」に対する回答割合が、「勉強したことがある」を上回った。

問14は、13の質問で「ある」と答えたものに対して、だれ（または何）から学んだかについて、多重回答により尋ねたものである。Table11は、問14の回答について、学年・性別毎に集計したものである。選択肢の具体的内容は、1. 家の人から、2. 友だちから、3. テレビ、新聞、雑誌などから、4. インターネットのホームページなどから、5. その他、の5つであった。Table11からは、全学年において、回答割合に違いは見られるにせよ、家の人から学ぶと答えたものが多かったことが分かる。また、Table11からは、その他の選択肢の回答傾向には、学年間あるいは性別間であり大きな違いはなかったことが見てとれる。

情報倫理意識と一般的規範意識の関係

本研究では、情報倫理意識の測定のために「情報モラルに関するアンケート」から質問項目を引用し、一般的規範意識の測定のために「児童生徒の規範意識（感じ方・考え方）に関する実態調査」から質問項目を引用した。そこで、両者の間にどのような関係があ

るのかについて検討を行った。分析手続きは、下記のとおりである。

一般的規範意識の測定に関する項目は、問1から問3までであった。問1から問3は、すべて4法からなる質問であり、かつ、回答した数字が大きい方が、一般的規範意識が高くなるように設定されていた。そこで全調査協力者の回答結果について、各調査協力者の質問1から質問3の回答を合計し、質問項目数で除した。この計算によって得られた値を、本研究では、一般的規範意識得点とした。Table12に、問9、問11の適切な行動を伴う情報倫理意識の有無と一般的規範意識得点に関する分析結果を示した。

一方、情報倫理意識の測定に関する質問は、正しい情報倫理意識に基づく適切な行動と、誤った情報倫理意識に基づく不適切な行動、その他、の3種類に分類されるよう設定されていた。そこで、全調査協力者の問9と問11の回答結果を、調査協力者の個人別に適切な行動、不適切な行動、その他、の3種類に分類した。

このような手続きに基づいて、情報倫理意識の行動で分類した各群のうち、その他を除く2グループの間の一般的規範意識得点の差について、問9、問11それぞれに対して、対応なしt検定を実施した。その結果、問9では($t(309) = -2.00, p < .05$)となり、適切な行動をしたグループの方が、不適切な行動を選択した

Table12 適切な行動を伴う情報倫理意識の有無と
一般的規範意識得点との関係

問9 ウィルスメールの危険性への対処行動		
	意識高行動	意識低行動
人数	226	85
平均	3.07	3.21
標準偏差	0.25	0.38
t 値	-2.00	$p < .05$

問11 チェーンメールの危険性への対処行動		
	意識高行動	意識低行動
人数	59	252
平均	3.19	3.17
標準偏差	0.32	0.27
t 値	0.37	$p < .05$

グループよりも一般的規範意識が有意に高いことが明らかとなった。問11についても同様の分析を行った結果、($t(309) = -0.34, p < .05$)となり、こちらも適切な行動を選択したグループの方が、不適切な行動を選択したグループよりも、一般的倫理意識が有意に高いことが明らかとなった。

考察

本研究の目的は、情報倫理意識と一般的規範意識との間にどのような関連性が見られるかについて検討することであった。そして、平成17年度現在の、児童生徒の情報倫理意識と一般的規範意識の実態を捉えることを付随的な目的とした。以下、それぞれの目的について、得られた結果に基づき考察を行う。

単純集計の結果

単純集計の結果からは、主として児童生徒の実態を捉えることができると考えられる。本研究では、情報通信機器および情報通信技術に関する知識の有無とそれらの使用経験について問う質問項目を設定した。Table1, Table2からは、小学生と中学生ともに情報技術に対する知識は十分に有していることが明らかとなった。一方、それらの使用経験については、「チャット」と「電子掲示板」に対する使用経験が、他よりも低いことが明らかとなった。以上のことは、インターネットでのコミュニケーション不全が理由で起こる事件が近年多く見られるようになったことから、「チャット」や「電子掲示板」でのコミュニケーション等のトレーニングの必要性を示唆するものであると考えられる。それでは、具体的には、それらはどこで教えるべきなのだろうか。それについては、問6、問7、問8の結果から考察できる。

問6では、児童生徒がインターネットを使う場所は、自分の家と学校が他よりも多いことが明らかとなっている。また、問7、問8の結果からは、児童生徒が、それぞれの家でインターネットを利用する場合、一人で利用することが多く、それに関するルールが決められていない場合が多いことが明らかとなった。ただし、これについては、問14の回答では、インターネットの利用法について、家の人から教わるという回答が非常に多かったことと考え合わせると、インターネットの利用について、その利用に関する何らかのルールは、家の人に教わっていると考えるべきであろう。以上の問6、問7、問8回答結果を総合すると、「チャット」や「電子掲示板」の利用に関する倫理的な面の指導などは、学校で教えることが適切である可能性が示唆されたのではないだろうか。

また、インターネットの利用に関してだけでなく、電子メールの利用における倫理意識についても、学校で指導する必要があることが、問9、問10、問11の回答結果から明らかとなった。

以上のように、情報倫理意識と一般的規範意識の実態について考察をしてきたが、児童生徒の情報通信機器および情報技術に関する知識は十分であると推察される。一方、それらの利用に関わる情報倫理意識の指導については、「チャット」や「電子掲示板」のインターネット上のコミュニケーションが求められる状況におけるルールや、電子メールの処理に関するルールなど、情報技術の利用に典型的な場面に即した適切な行動に関する指導が求められることが示唆された。

情報倫理意識と一般的規範意識の関係

正しい情報倫理意識に基づく適切な対処行動の有無による、一般的規範意識の得点とのt検定による分析の結果、2つの具体的場面における行動が適切である場合に、不適切な行動をとる場合よりも一般的規範意識が有意に高かった。この結果は、先行研究においても明らかにされていなかったことであり、当該領域に対して意義のある知見を提供したと思われる。

一般的規範意識が高い児童生徒のほうが、情報倫理の観点からみて適切な行動をとるという結果は、一般的な規範意識と情報倫理意識には、互いに関連する要因があることを示唆している。このことは、両者を関連付けることが、指導上効果を持つことを示している。

情報倫理意識を測定するために用いた質問項目においては、ウィルスメールやチェーンメールに対する対処を尋ねた。これらは、日常生活で遭遇することは、基本的にはない場面であると考えられる。それにもかかわらず、一般的規範意識の程度が情報技術を扱うことに特定の場面における行動と関係するという結果

が本研究によって得られた。このことは、先述した指導上の関連付けの必要性だけでなく、情報倫理意識と一般的な規範意識との関係について、今後、より詳細な概念的・実証的検討を行うことの必要性を示唆するものであると考えられる。それでは、今後どのような要因を検討する必要があるだろうか。

越智 (2003) は、教育倫理学の観点から、情報モラルと日常モラルの差異について、概念的考察を進めている。その中で、情報モラルにおける重要な概念として、責任があげられると述べている。越智 (2003) は、インターネットにおける責任とは、自己責任に他ならないと述べている。ここでの自己責任とは、インターネットを利用して情報を受信したり発信したりする時に、自らが負わなければならないリスクや社会的責任や法的責任のことである。このことを踏まえると、情報倫理意識と一般的規範意識の関係を検討するための有用な概念のひとつに自己責任をあげることができるかもしれない。

児童生徒の規範意識調査において、一般的規範意識と関連を持つ概念の一つに挙げられているのが、信頼感である。ここでの信頼感とは、小中高生が大人に対して抱く、信用できるかできないか、ずるいかわるくないかというような感情のことを指す。その中には、

責任感があるかないか、という感情も含まれている。社会における一般的な規範意識の形成の主体となるのは成人層であると考え、成人層に対する信頼感が、小中高生の自己責任意識に及ぼす影響に関する検討が求められる。

引用文献

- 中央教育審議会第一次答申 1996 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について
三重県教育委員会 2004 児童生徒の規範意識 (感じ方・考え方) に関する実態調査
文部科学省 2002 小学校学習指導要領
文部科学省 2002 中学校学習指導要領
越智貢 2003 情報モラルと日常モラルの差異に関する研究—教育倫理学の観点から— 平成14年度～平成15年度科学研究費基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書
越智貢 (編) 2004 情報倫理学入門 ナカニシヤ出版
社団法人コンピューター教育開発センター 2004 情報モラルに関する調査報告書～校長, 教員, 児童生徒に対するアンケート調査から～ 平成16年度文部科学省「情報化の影の部分への適切な対応に関する研究委託事業

Appendix 本研究で用いた質問紙の質問項目

1. あなたは、次のことを行うことについて、どう思いますか

	してもかまわない		しない方がいい		してはいけない		ぜったいしてはいけない
(1) 学校をさぼる	1	—	2	—	3	—	4
(2) 髪の毛をそめて登校する	1	—	2	—	3	—	4
(3) 授業開始のチャイムが鳴っても、席につかない	1	—	2	—	3	—	4
(4) 授業中、私語 (関係ないおしゃべり) をしたりさわいだりする	1	—	2	—	3	—	4
(5) 授業中、先生にだまってトイレに行く	1	—	2	—	3	—	4
(6) 授業中、マンガや本などを読む	1	—	2	—	3	—	4
(7) 学校のをこわす	1	—	2	—	3	—	4
(8) 先生の指導 (言うこと) を無視する	1	—	2	—	3	—	4

2. あなたは、次のことを行うことについて、どう思いますか

	してもかまわない		しない方がいい		してはいけない		ぜったいしてはいけない
(1) お店のものを万引きする	1	—	2	—	3	—	4
(2) タバコを吸う	1	—	2	—	3	—	4
(3) 動物をいじめる	1	—	2	—	3	—	4
(4) 人に暴力をふるう	1	—	2	—	3	—	4
(5) 人の気持ちを考えずに発言する	1	—	2	—	3	—	4
(6) ジュースの空き缶などを道路にすてる	1	—	2	—	3	—	4
(7) チャットやメールで人の悪口を書きこむ	1	—	2	—	3	—	4
(8) 他人の失敗を、笑ったりからかったりする	1	—	2	—	3	—	4

3. あなたは、次のことを行うことについて、どう思いますか

	しなくてもかまわない		する方がいい		なるべくすべき		ぜひすべき
(1) ボランティア活動に積極的に参加する	1	—	2	—	3	—	4
(2) 家の手伝いをする	1	—	2	—	3	—	4
(3) 友達のなやみを聞いたり、相談相手になったりする	1	—	2	—	3	—	4
(4) 友達に質問されたとき、その友達が分かるまで教える	1	—	2	—	3	—	4
(5) 電車やバスで体の不自由な人やお年寄りに席をゆずる	1	—	2	—	3	—	4

4. 次のものについて知っていますか。(1)~(4)それぞれ答えてください。

- (1) ホームページ 1 知っている 2 知らない
- (2) 電子メール 1 知っている 2 知らない
- (3) チャット 1 知っている 2 知らない
- (4) 電子掲示(けいじ)板 1 知っている 2 知らない

5. パソコンで、次のものを使ったことがありますか。(1)~(4)それぞれ答えてください。

- (1) ホームページ 1 使ったことがある 2 使ったことがない
- (2) 電子メール 1 使ったことがある 2 使ったことがない
- (3) チャット 1 使ったことがある 2 使ったことがない
- (4) 電子掲示(けいじ)板 1 使ったことがある 2 使ったことがない

6. パソコンでインターネットを使っている場所はどこですか。(当てはまるものすべてに○をつけてください。)

- | | | | |
|---------|-------|----------|-------------------|
| 1 自分の家 | 2 学校 | 3 図書館など | 4 インターネットカフェなどのお店 |
| 5 友だちの家 | 6 その他 | 7 使っていない | |

7. パソコンでインターネットを使うときは、家の人といっしょですか。
- 1 いっしょ
 - 2 たまにいっしょのことがある
 - 3 いっしょにはやらない (ひとりで使っている)
8. あなたの家では、パソコンでのインターネットの利用のしかた (利用時間など) は決められていますか。
- 1 決められている
 - 2 決められていない
9. 知っている友だちから、とつぜん「・・・JOIN US TOGETHER!!!」という題名のメールが届きました。この友達からのメールで英語の題名だいめいのものはじめてです。しかも、何かのプログラムがいっしょに付いていました。あなたならどうしますか。
- 1 大切な連絡れんらくかもしれないので、すぐにメールをひらいて読む
 - 2 親しい友だちからのメールなので、とりあえずメールをひらいて読む
 - 3 よくわからないので、メールをひらく前に、メールを送ってくれた友だちにきいてみる
 - 4 開きかずに削除けつじょする
 - 5 わからない
10. ある友だちが、「チャットや電子メールの場合は、ニックネームを使って本名をかくせば悪いことをしても自分だとばれることはない。」とっています。この友だちの話は正しいと思いますか。
- 1 正しいと思う
 - 2 正しいと思わない
 - 3 話をしている友だちが信用できるかどうかによる
 - 4 わからない
11. ある友だちからメールが届きました。中には「気をつけてください。『JOIN THE CREW』という題名の電子メールは、今流行中のウイルスメールです。だからこの題名のついた電子メールは受けとつても絶対に開かないで下さい。このことについてはまだ知らない人もいるかもしれないのであなたの友だちにもこの電子メールを送ってあげてください。」と書かれていました。あなたならどうしますか。
- 1 別の友だちに電子メールを送る
 - 2 おとなの人に相談する
 - 3 この電子メールについては無視 (むし) する
 - 4 わからない
12. 学校で、インターネットを利用するときの約束ごと (ルール) やマナーについて勉強したことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
13. 学校以外のだれかから、インターネットを利用する際の約束ごと (ルール) やマナーについて学んだことはありますか。
- 1 ある
 - 2 ない

13の質問で1 「ある」と答えた人は、次の14の質問に答えてください。

14. だれ (または何) から学びましたか。 (2つ以上えらんでもかまいません)
- 1 家の人から
 - 2 友だちから
 - 3 テレビ, 新聞, 雑誌 (ざっし) などから
 - 4 インターネットのホームページなどから
 - 5 その他

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。